

研究課題名	食物抗原に対する経口免疫寛容の誘導における腸管常在好酸球の役割の解明
フリガナ	ヨコタ マサヤ
代表者名	横田 雅也
所属機関（機関名） （役職名）	千葉大学医学部附属病院総合医療教育研修センター 特任助教
本助成金による発表 論文，学会発表	該当なし

## 研究結果要約

成人食物アレルギーでは、生涯にわたり原因食物の除去を要することが多く、誤食はアナフィラキシーなどの重篤な病態をきたし生命を脅かす。小児食物アレルギーの一部の患者では、様々なプロトコールの経口免疫療法が試みられ長期に寛解を維持する例がみられるが、治療中断による再燃や治療によるアナフィラキシーのリスクを伴う。成人の食物アレルギーでは、効果的な免疫療法は存在せず、患者は生涯に渡る原因食物の除去を強いられる。すなわち、食物アレルギーには大きなアンメットニーズが存在し、新たな治療戦略の確立は急務である。

多くの研究により、食物アレルギーの発症には腸管の恒常性の破綻が関与することが示唆されている。生体内に存在する好酸球の多くは腸管粘膜固有層に常在し、腸管の恒常性維持に重要な役割を果たしていることが明らかとなってきた。本研究では、これまでアレルギー炎症におけるエフェクター細胞であると考えられてきた好酸球の組織恒常性維持機能に着目し、アレルギー発症抑制につながる経口免疫寛容の誘導における役割の解明を目指した。食物アレルギーモデルの解析で、好酸球欠損マウスでは、抗原感作後の特異的 IgE 産生が事前の抗原経口投与により抑制されず、抗原チャレンジにより強いアナフィラキシーショックを起こした。このことから、好酸球は経口免疫寛容の誘導に重要な役割を果たしていることが明らかとなった。